

平成30年12月

普及活動報告

～来年もたくさんの梅干しを～

梅剪定講習会を開催

(京丹波町：3日)



剪定の目的について解説

来年以降に充実した果実が収穫できるよう、剪定のポイント及び手順について、室内で説明しました。その後、昨年の活動で剪定を行った木を使い、新梢発生の様子や剪定方法について、実技を交えて指導し、ボランティアによる作業が行われました。

参加者からは、「剪定の強弱によって、生長がどのように変わるのか」「隔年結果を軽減するためには」などの質問がありました。

普及センターは今後も、美味しい梅干しの安定生産を支援します。



剪定の実技

場 所 京丹波町質志

出席者数 35名

平成30年度おいしい食の応援隊「京丹波町質志 梅の栽培応援」として、今回は第7回の活動

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年12月

普及活動報告

京丹波町で実践農場修了式を開催 ～地域特産物の新たな担い手が誕生～

(京丹波町：4日)



普及センター所長から修了証書の交付後、修了者から決意表明と技術指導者及び関係機関から激励の言葉がありました。

修了者は「黒大豆の栽培技術を学んだ。今後は市場開拓等にも取り組みたい」と話され、関係機関からは「黒大豆は地域特産物であり心強く思う」「若い人との仲間づくりや関係機関との関わりを積極的にもって欲しい」など大きな期待と支援の意向を込めた言葉が掛けられました。今後も普及センターは、修了者の経営の安定に向けて支援します。



場 所 京丹波町中央公民館
出席者数 11名

京丹波町における実践農場設置数：11か所（平成14年度以降）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年12月

普及活動報告

～冬季管理の徹底を～
関係機関で京かんざし巡回指導
(南丹市・京丹波町：10・11日)



生育状況と出荷見込みを確認

今秋は比較的温暖で経過したため、生育が早まり出荷も前倒しとなり、この時期としては数量が多くなっています。このため、普及センターと関係機関で栽培ハウスを巡回し、最終出荷時期を把握するとともに、継続出荷のために、遅播きのものについては保温を、生育の進んでいるものについては病害の防除と、収穫を遅らせるための換気に努めるよう、栽培管理の徹底を呼び掛けました。

生産者からは「今年は予定より早く出荷を迎え、最終も早まりそう」との声があり、JAを通じて出荷情報を市場へ伝えるとともに、今後も継続出荷できるよう指導していきます。

場 所 南丹市・京丹波町
出席者数 7名

平成30年度の作付け：栽培農家17戸、栽培面積70a

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年12月

普及活動報告



一年間の取組を振り返る（普及センター）



台木試験の結果報告（農林センター）

～気象災害が多かったこの一年～ 賀茂なす栽培反省会を開催

（亀岡市：18日）

JAからは相次いだ気象災害により目標を下回った出荷実績について、農林センターからは賀茂なすと親和性の高い台木の成績について、普及センターからは新たに提案した施肥法を含め、今年一年の取組について報告しました。

各関係機関からは市場情勢などを含め、今後とも亀岡産の賀茂なすに期待する多くの声が聞かれました。

また、台木試験の結果を踏まえ、来年作からの導入が検討されています。部会長からは「頑張ろうという声掛けが大事。前向きに進もう」と呼び掛けがありました。

場 所 JA京都亀岡中部支店

出席者数 28名

平成30年度 栽培面積151.5a、栽培者20戸

京都府南丹農業改良普及センター